

が、學校の目的は畢竟社會に活動する人間に向て基礎を與へる譯でありますから、學生をして總て萬般の事に當つて判斷を下し得るやうにせしめねばならぬ。即ち複雑なる社會事象を判斷するのに、單に偏狹なる一方面からのみする様な弊に陥らしめない様にしなければならぬ。さりとて専門の學問は學問として修めなければならぬが、學校を卒業して社會に出て、働く場合に、日本の如きはまだ學校以外に識力を修得するに足る參考の事物が遺憾乍ら少いのである。歐洲に於けるが如き、各種の博物館美術館或は雜誌其他社會教育の設備が餘程少いのであります。故に日本の卒業後の學生は、歐洲の學生が容易に得られる事も頗る得難いと云ふ形勢である。併し孰れにしても有用の人物を學校に於て作る、即ち社會に出て有爲の人物たらしむるの基礎を造ると云ふ事が、學校に於ての目的と存する。そこで専門學を修める諸君に向つて望む所は、成るべく普通教育の腦力を缺かぬ様に注意せられたいと云ふ一事である。

諸又大學と云ふ事に就ては、段々加藤博士などのお説もありましたが、歐羅巴のユニバーシテである。即ち獨り高等の専門學の教育所たるに止まらずして、學問の蘊奥を究める所である事は論を俟たぬ。之は素より學問に従事せられる人の熟知せられる事ではありますが、當校の如きも先づ今日は政治經濟文學法律の四科を以て端緒を開かれる譯であります。只今の意志を尙ほ

將來に進められて他の學科をも併せ備へ、歐米諸國にある所の所謂ユニバーシテなるものに進められんことを希望して止まぬのである。又學校の隆盛を極めるに就いては多數の俊秀なる人物我國の將來に重大なる責任を負ふ所の少壯者が入學をする場所でありますから、成るべく學問の偏倚せぬやうに注意せられん事を希望する。

世界一般の定見でありますけれども、所謂學問には國境なし、即ちナショナル・バウンダリと云ふものは學問の上にないと云ふ事を深く注意されん事を希望して止まないものであります。歐羅巴に於ても近年民族主義の盛なる結果として、學問が稍々偏倚するの憂もなきにしもあらずと見へる所が學科の種類によりてはあります。我日本の如き國に於ては特に注意をせられるの必要があると考へる。固より何れの國に於ても各々特別の歴史を有つて居るから、此歴史の基礎には重きを置かんければならぬ譯であります。之に重きを置くも其見る所狭きに過ぎてはならぬ。國を異にし境を異にしたる人類の上にあてはめることの出来ないやうな學問をして居ては仕方がない。殊に學問の進歩は世界的のものでありますから、自國の事にもみ注意すると云ふ事は出来ぬ。汎く餘所の進歩にも注意して、彼の長を採つて以て我が短を補ひ、我また新を出し彼に供給し、以て互に相研磨して行かねばならぬと考へる。我國の目的は、二十世紀の文明場裡に

立つて、開明の諸國と駢馳し提携し往かうと云ふのでありますから、若の此點に於て先學者が誤ると、東洋の一隅に學問的攘夷論を再演するやうな事になり、日本の學問の將來に重大なる不幸を蒙ると考へる、之は苟くも教育に従事せらるゝ諸君に於て深く御留意あらん事を切に茲に望み置きます。今日は當校の招待を蒙り、同時に我舊友なる大隈伯爵より特に招待を蒙つて、伯爵が多年拮据經營の結果、此大學の盛大なる式を挙げられるに就て、席末を瀆す事を得たるは伊藤博文が深く満足する所で、同時に大隈伯爵及教職員諸君に満腔の感謝を表するのであります。

何故我國は世界の同情を博したるか

(明治三十七年五月十八日、桂總理官邸に於ける國庫債券發行に就き桂首相の銀行家招待會に於いて)

- 一、予は諸君と直接職務上關係あるにあらざるも、當路者の希望に應じ時局に對する卑見を開陳す。
- 二、目下の時局に就て、予は外交の存續中最後迄我國の威嚴利と益を毀損せざる限り戰爭を避け

- んことの希望を有したるも、之を貫徹する能はざりしは、今日も尙ほ遺憾とする所なり。
- 三、日本の今回開戦を辭せざりし所以は、第一、國家は生存上正當防衛のため、第二、商工業上の機會均等主義、他國の領土尊重主義擁護の爲め、之を避くること能はざりしに由る。
- 四、若し夫れ此戰爭の結果如何の問題に至りては、予は現に各方面より材料を蒐集して日夜研鑽を怠らずと雖も、未だ明確なる判斷を下すを得ず。思ふに何人も亦然らざるを得ざるべし。
- 五、凡て戰爭終局の成功を期せんと欲せば、一國の政權を有する當局者と、戰鬪線に在る將卒と金力を有する資産家實業家の同心協力を要するは勿論のことなれば、諸君は當局者と和衷協同し、所謂舉國一致の實を挙げ、戰場に在る將卒をして後顧の憂なからしめんことを切望す
- 六、眼を轉じて宇内の形勢を察すれば、文明世界中吾等に同情を寄する者甚だ多し。蓋し其の原因は一にして足らず。
- 七、第一の原因は維新の宏謨なり。
 - 甲 回顧すれば四十年前予の始めて洋行せし際は、特に研究したる人々を除くの外、泰西人は日本國なるものを知らず、然るに今日の日本は世界の耳目を聳動しつゝあり。
 - 乙 僅々たる歲月間に日本が斯の長足の進歩を遂げたるは、全く維新當時に開國進取の國是を

定め、爾來銳意此方針を遵守したるに由る。

丙 王政復古と共に復古政府が世人の豫想に反して開明主義を採りたるは實に一大英斷にして、此の英斷は其當時先見の明ある政治家が叡聖なる 皇帝陛下を輔弼したるに由るは勿論なれども、其以前に於て林子平、渡邊華山、高野長英、佐久間象山其他洋學家憂國者の功績も亦與りて力あり。

丁 開明主義實行の結果として、一方には俊秀の青年を歐米に留學せしめ、一方には歐米の學者技術家を我國に招聘し、専ら泰西の文明制度を採りて我短を補はんことを期せり。

戊 彼の廢藩置縣の如きも單に政治上重要なる改革なるのみならず、舊社會の階級制度を根柢より打破したる社會的大改革なり。

己 此の社會的革命的結果は、日本國民をして、上下貴賤の別なく法律の前に平等ならしめ、移轉結婚職業言論著作其他の自由を得せしめ、其才能に應じて相當の官職に就くの權能を得せしめ、其分限に應じて奉公の義務を盡すの念を抱かしめたり。

庚 而して又泰西諸國と交際の結果として、我國民は文明的の思想に感化せられ、列國と共に文化の爲に盡さんとするの念を起せり。

辛 今日公共心に豊み自己の血液を君國の爲に犠牲に供し、對岸に奮闘し、全世界環視の中に同情を博しつゝある我海陸の猛將勇卒は、實に維新の宏謨の賜物たる社會的大革命の產出したる健兒なり。而して諸君は、如何にして彼等の需要を充し彼等をして後顧の憂なく戰鬥に従事せしめんかといふ問題を攻究せんとして此處に參集せられたるなり。

八、文明世界の我國に同情を寄するに至りたる第二の原因は、我政略の常に穩和妥當なることなり。日本は文明獨立の一國として、我正當なる要求は他國をして之を承認せしむることに努めたるも、未だ嘗て他國の正當なる要求を妨抑したることなし。

九、斯の如く其の由て來る所は種々あるも、文明世界の同情なるものは、國家の生存上就中戰爭の際に於て非常に有力なる無形的後援なるが故に、我國民は此同情に背からざるの覺悟なかるべからず。此點に關し予は教育あり且つ富有なる諸君の戰爭に關する確乎不拔の精神並に諸君の文明世界に對する態度如何に重きを措くものなり。

十、論じて此處に至り一言諸君の注意を促さんと欲す。世上には自ら經濟力を有せずして徒らに金力あり手腕ある他人の事業を妨害せんとする者あり、如斯行爲は予の取らざる所なり。日本は如何なる場合に於ても自己の正當なる主張は之を貫徹することを努むると共に、自己の

分限に安じ飽くまで胸襟を開きて友邦の正當なる主張と利益を承認するに吝ならざるを要す
十一、開陳する所は新奇なる説に非ざるも予の誠意を披瀝したるなり。多少諸君の參考に資する
を得ば幸甚なり。

國家存亡の秋に際しての金融業者の責任

(明治三十七年五月二十日
東京銀行集會所に於いて)

諸君。私も今晚來賓の一人に數へられました。多くの意思を代表して御話を申すといふ様な
勇氣は有りませぬ。併し重も此の席に列せられて居る諸君は、日本國の財政經濟社會を主宰す
る所の人物なりと思ふ。主宰と云ふ語が果して當るや否や存じませぬが、確かに財政經濟社會の
消長に關することを、或は誘導し或は警戒する權力を持つて居らるゝ諸君なりと認める。私は諸
君の事業に關して所見を御話し申すやうな經驗のある人間ではありませぬから、只今日の時局に
就いて他の方面よりして諸君の御注意を喚起し、尙は我赤心のある處を披瀝したいと思ひます。

今日は如何なる時であるか。我々は茲に諸君の賓客として會して居るに拘はらず、國家は如何
であるか。國家の原素たる國民を擧げて、國家の運命に關係する戰爭を前岸に於て繼續しつゝ有
るのである。而して國家の存亡則ち個人の安危は擧げて此戰爭の爲めに犠牲に供さなければなら
ぬ。此前岸に於ては我軍人の生命は如何に危険に瀕し、その生命は如何に失はれ其熱血は如何に
注がれて居るかも知れぬ。海軍では二三艘の軍艦が沈没して、其船に乗込んで戦死をした者の家
族等は此訃音を聞いて今愁に沈む者が幾らあるか知れぬではないか。そう云ふ今日に遭遇して相互
に三鞭酒を傾けて笑談する裏に、我軍人等は如何なる心を以て死に就きつゝあるかと云ふことを
考へなければならぬであらう。私がいふ迄もない、列席の諸君は皆我と同情同感であると云ふこ
とは敢て疑はぬ。先日總理大臣の官舎に於て御話した通り、彼等をして後顧の憂なからしめねば
ならぬ。我等は彼等に對して、日本國々家の爲め快く死せる後は御請合申すと云うて彼等を出し
た。尙ほ此上更らに快く死ねと云うて出さなければならぬ。假令親戚朋友の關係はなくても、一
國を成して居る以上は親戚兄弟も同じ事である。是に向て諸君は如何なる同情を寄せらるゝか。
而して我に對抗する處の敵は如何なるものであるか。地理的に論じたら世界の七分の一を領する
露國である。人口の多寡も一億四十萬有餘を收めて居つて、日本國に三倍する。我等は此の強敵

と雌雄を争はざる事を得ざるの境遇に際し、諸君の盡方に依り軍隊をして後顧の憂なからしめんことを希望するのである。

抑も此戦争たる、人種的又は宗教的戦争にあらずして、我獨立を主持せんとする爲に已むを得ざるに出でたるものである。此大方針の根據とする所の文明主義を何處迄も貫徹しやうと争うて居るのである。若し自ら退縮し固有の小日本を以て甘んじて世界に生存しやうと思ふたら、此戦争は起る筈がなかつた。人も小兒より段々成育して長じて來れば智識も生じ發達もして來るのであるから、一人一生涯に於て變化する事は非常なものである。國家もまた然りであつて、進まざれば退くと云ふ諺もある。今の世界は進まずして止れば他が進む事になる。日本も今年は神武天皇即位以來二千五百六十四年である。此長年月の間に國家安危存亡の大患に遭遇した事は幾度あつたか。歴史を緋て見れば危うかつた事は蒙古人來襲位のもので、其他には存亡に關する程の大事故は無かつた。秀吉が少許のいたづらを朝鮮にしたことはあるが、是を私はエライ大事件とは見ない。如何となれば其當時我に對し明國や朝鮮は今日の如き武器を有つて居らぬ。列國が今日の如く世界場裡に立て競争する時代でもなかつた。然らば今日は日本國創造以來初めて遭遇する千古未曾有の重大事故と考へる。人も尙ほ己の主義を遂行するが爲に生死存亡するが如く、國亦然

らざるを得ない。若し今日の戦を避けて居たならば日本國は畏縮して仕舞ふの外なかつた。畏縮したら東洋の一隅に於ける一小國たるに過ぎない。若し露國をして其政略を極東に擅にせしめたならば、滿洲朝鮮は勿論の事、我日本も亦露國の命令を受けなければならぬ事になる。果して然らば日本國の獨立及發達は此戦争を遏めしむることが出来なかつたのである。

我々は斯の如き卑屈に果して甘んじ得たか。此事に就ては外交當局に其人があるから、自分で牛耳を取つて爲した事ではない。自分は僅に其相談を受け傍觀の位地にあるけれども、國を憂ふる上に於て如何にもそれに同意は出来ない。此戦争は生死存亡に關係する、否寧ろ國家の存亡に關係する事柄であると萬々知りつゝも、止める方が宜しいと 天皇に建言することも出来ず、又當局者に向つて云ふ事も出来なかつた。併し成るべく國家の耻辱を受けざる範圍に於て戦争を避けたいといふ希望は最後に至る迄持つて居つたが、遂に成功しなかつた。而して希望せざる不幸なる戦争を見るに至つた。まだ世界文明の進化には最上に位する所謂神が人間社會を直接に支配することは現はれて來ぬから、貴様は非なり貴様は是なりと云ふ裁判はない、故に天に訴ふる外はないと、茲に干戈に訴へて勝敗を決せんとして居るのが今日の事態である。我々も自ら信ずる處を以て是なり、自ら生存するの理由斯くの如くならざるを得ぬと云つて、今日は天に訴へて其

存亡勝敗を賭して居る。而して此存亡勝敗を天に訴へつゝある國家の元素たる國民は、此存亡の爲に能く戦地に於てドンドン熱血を注いで死につゝある。是等の人間に對して御互に己れ自ら死ぬると云ふ決心を以て充分の同情を寄せないと云ふことがあつては、一國同胞の感情としても國家の感情としても、義務的・道德的に於て濟まぬ譯である。

然らば諸君は今日之に對して貢獻されなければならない、之に向つて同情を表せられなくてはならぬと云ふ時に當て、深く諸君の考慮を望みたいことは斯う云ふ事である。私は内國債とか外國債とかさう云ふ區別を今日は論ずるのではない。我々は人道即ちヒューマニター、プリンシプル・ラブ・シビリゼーション即ち文明の區域に這入つて我々の相當に受け得べき權利を保護して競争場裡に於てそれを進歩させねばならぬ。此主義の爲に世界は如何なる同情を我國に表して居るか云ふことに就て深く諸君の考慮を煩はさなければならぬ。

獨り新聞や雜誌に於て同情を表せられて居るのみでない。昨今英國に於て募集されたる公債の状況は如何であるか。特に北米合衆國に於て募集されたる處の公債の状況は如何であるか。日本國と露國とは互に自分の家を焼かれるまでも競争しやうとして、實際己れの家が焼けるかも知れぬと決心して、此主義の爲に進みつゝある。併し成るだけ焼かせぬ爲に前岸に於て戦ふ處の兵士

此兵士をして勇氣を阻喪することなからしめ、彼等の目的を達して我國家の生存を全くする爲めに、天に訴へて其勝敗を決せんとするのであるが、負けるかも知れぬと云ふことは其内に含んで居らなければならぬ。勝つことが初めから分つて居れば戦争は無いのである。それ程の決心をして居る危険の境遇に居る日本に對して、世界は如何なる同情を表して居るか。此戦争に負かしたくないと云ふ心がなければ何者が之に金を投ずるか。利息の高下と云ふやうな些細な問題ではない。我が公債に對して、英國に於ては三十倍の申込があり、米國に於ては五倍の申込があつた。日本國の主義に世界が同情をよせて居るのである。此の同情に向つて私は滿腔の感謝を表して居る。然らば諸君はどうぢや。諸君の内には非常の財産家もあらう。或は又資産を集合したる人より信用を受けて委託され、責任を負うて其財力を支配し、或は實業の爲に之を放用し或は金融社會の爲に時に之れを吸収し時に放資する人もあらう。此等の金融社會を支配し操縦せらるゝ者の責任の重大なるは、固より論を俟たぬ。經濟金融上の權力を有する者と國家の運命を支配する政府とは、如何に不入望であらうが、其の掌中に實權の有ることを如何ともすることができない。是は諸君と共に相謀つて而して全體の目的たる日本國を何處までも安全に進行せねばならぬ。區區たる感情の異動を以て其進歩に防遏を與へる如きことあつては、前岸に於て働きつゝある人間

は如何なる感覺を興すであらうか。彼等は固より決心して出て居るから、何分御頼み申すの一言ほかなからう。若し人々にして魂あるものとしたら、諸君が此間に充分盡力しなければ彼等の亡魂は長く天壤の間に瞑目することは出来ぬであらう。故に諸君は今日に於ては能く其處に考慮されねばならぬ、此安危存亡の懸る所は第一陸海軍であり、之れを宜しきに取扱ふものは政府である、而して之れが供給に應ずるのは資本ある經濟社會である、寧ろ經濟社會を支配操縦する銀行家諸君であると。其抑揚操縦に至つては固より自分は實驗もない。其道に長じて居らぬから諸君に向つて御勸告する資格はない。それは諸君の眼力に存する處である。一方に於ては國家の供給に應じ、一方に於ては實業社會を伸張せねばならぬ。幾ら戦争があるからと云つても、實業を放擲して宜しいと云ふものではない。人は一日も食はなくして立つものではない。一日も事業なくして立つものではない。故に其間に於て其操縦を宜しくし、適當なる程度に於てすることは只諸君が當局者と謀つて、此時局に於て適當の處置を施されんことを飽く迄希望して止まぬのである。

婦人の活動

(明治三十九年十一月十日、京城愛國婦人會支部大會に於て)

本日は愛國婦人會の大會を催さるゝ由にて、委員諸氏の案内にて臨席したるが、この盛況を見て欣悦に堪へず。本會の成立及びこの盛況を呈するに至りたる次第は、只今鶴原長官より演説ありたれば、此處に贅せず。只今日日本婦人が日本社會に與りし事柄に就き所感を述べし。抑も何れの國に於ても國々の風俗習慣あり。東洋の婦人は、一家を治め、所謂男は外に働き女は内を守るの風習なり。清國韓國の婦人は未だこの風習を脱せざるもの、如し。獨り日本婦人は稍や外に現はれ、女子も亦男子を助けて社會の事に携はるに至れり。蓋し外に現はれ社會の爲めに働く事は東洋從來の風俗には絶えて無き所にして、全く歐米輓近の進歩による。日本に於ても卅九年前には、婦人は社會の事業に携ることなく、公の席にも親類間の交際の外殆んど出席せざる所なりき。今の婦人の社會に於ける事業に付て、予が關係せる事實二三を陳述せんに、予は明治十五年憲法制度取調の勅命を奉じて歐洲に至り、主として獨、奧、伊の間にあり、外國の帝室を訪問し各皇后にも謁見して親しく其社會の事業に盡瘁せらるゝ實情を目撃したり。獨逸にては現皇帝の伯母に當るお方は學校病院事業に頗る熱心にして、其費用を自分の得給へる帝室費中の俸給より支出せられ、歐洲の風習たる銀婚式及び金婚式に各方面より捧呈せる金銀製の物品をば凡ての費用に投ぜらるゝ程なりき。而して自ら女子學校を創立し給ひ、時々自ら馬車にて臨幸せられ、其

教場は云ふ迄もなく庖厨等をも巡覽あり、臺所の清潔庖丁の錆迄も御注意あらせられ、校長には信用ある婦人を置きて監督せしめ、種々御相談せらるゝ事も少なからず。時に簡單にて清潔を旨とせる食卓に生徒と共に會食せらるゝことさへあり、又病院も均しく監督の下に於かれ、時に自ら病室を見舞はるゝ次第なるが、子の在留中に熊本縣人某の入院し居りしを陛下には親しく慰問あり、遠國の日本人が子の病院に入院し居るは誠に喜ばしき事なりと三個の蜜柑を籠に入れて贈與せられたるが如き、當人は固より聞くもの皆深く感動せる所なりき。又露國に往て見れば、同國は土地廣漠にして人民多きも、沃野乏しきが故に貧民少なからず。從て棄兒多く、莫斯科には五千人餘も收容せる棄兒院あり。之が總裁は露國代々の皇后にして、其建築等は頗る壯大を極め設備も甚だ完全にして、皇后が事務を執らるゝ事務室もあり、其養育は自己の信する婦人を以て監督せしめ、中には相應に年長の女もあるが、右は軍人等の遺兒にして婚姻する迄教養せらるゝなりと云ふ。棄兒受取の方法等は最も行届きたる者にて、何人も棄兒を爲すに其名前を告知するは耻とすべき處なるに據り、之を遺棄する穴ありて、其處に棄兒すれば姓名も質されず、一片の受取書を交付せらる。而して右には番號を記入しあれば、後日親にして其の兒を尋ね見んと欲せば、番號に據りて直に會見し得る次第なり。棄兒院にて受取りたる兒童は、湯浴の上新衣を着せ

しめ、體重を計り、醫師をして監督せしめ、六箇月の後金を附して地方の百姓に養育を托する順序なるが、其後も時々巡廻して注意を與ふる規定なり。子が遊歴當時の英國皇太子妃即ち今の皇后陛下は御手製の物品を販賣せしめ、其利益を以て貧民救助の費に宛てさせられ、父母は毎日勞働に出づる時に兒童を學校に預け、夜に至れば連れ歸らしむる規則なり。是れ晝間は兒童を棄て置きて勞働に従ふは已むを得ざることもなれども、親子の情愛は飽く迄も喪失せしめざるの趣意よりして、夜間は家に歸らしむるものなりと云ふ。而して其學校は貴婦人をして最も親切に教育の事に従はしむるが故に、餘りに貧困ならざる者も入校を望むもの多きにより、貴婦人自ら出張して、果してその家庭が貧困なりや否やを検する程なりと。此等の事例は歐洲に於て一々列擧に遑あらざる事なるが、予は歸朝の後之を我 皇后陛下に親しく上申する處ありしに、御感斜ならずして、遂に華族女學校并に慈惠醫院の創立を見るに至れり。而して慈惠醫院は高木兼寛主任として其經營を爲し來りしが、單に施藥に止まらず入院施療を爲すを要し、其費用も莫大にして之が維持の困難なるより、別に慈善會をも設立し、華族大臣紳商等の助力に依りて基金を作り、孤兒院及び慈惠醫院に支出の方法をも設けたり。又た日本赤十字の事業は、今は已に故人となりたる佐野常民等の創業に係り、最初博愛社の設けありしが、予の十五年歐洲より歸朝して宮内卿と爲

るや、之が助力の依頼あり、其總裁は故有栖川宮殿下なりしが、當時予は其名前の狹隘なるを思ひ、之を萬國共通一視同仁の主義に基く赤十字社と爲すべしと慫慂したりき。然るに當時は、十字の耶蘇教に因む宗教上の嫌惡より、如何ならんと疑惑を懐く者もありしが、赤十字は單に初の會合地たる瑞西ジュネーブ州の紋を採用したるに過ぎざれば、決して偏狹の意味あるに非ずとなし、遂に日本赤十字社を創立したりき。我 皇后陛下も歐洲貴婦人の社會上に於ける實況を聞き召され、社會の事業に御心を注がせらるゝ御事となり、以來學校の奨勵に伴ひて社會の交際頻繁となり、交際の頻繁は又た社會の事業を誘導するに至れり。今の愛國婦人會も均しく慈善事業にして、婦人のやさしき慈善の心が社會の上に活動する者と云ふべく、是れ最も婦人至當の事業にて、此事たる獨り日本婦人に止まらず、韓國貴婦人諸子も亦率先誘導せらるゝに於ては、其國の進歩を助くる事必ず尠少に非ざるべし。尙ほ韓國婦人は單に慈善の事業のみに止まらず、社會必要の事業に就ても關係すべき事甚だ多く、例へば工業上に於ても女工を要する事多々あるべく、若し婦人が此等の事業に向て活動するに至らば、其國家を益すること甚だ大なるべしと信ず。

聖旨を奉戴して布教に精進せよ

(明治三十九年十一月十七日)
龍山西本願寺開部式に於いて

韓國各大臣以下諸君。本日は本願寺の開部式を舉行せらるゝに付き、御招待を蒙りたる段を深く感謝す。思ふに、西本願寺を初め各宗に於て宗教擴張の目的を以て韓國に來り、其教法を弘めんとするは今日の現状なるが、本日の開部式に付ても、私に於ても本來宗教本義を韓國民に宣布し以て誘導する事は至極結構の事と信じ、本日の式を祝すると同時に、何れの宗教に於ても同様に、各宗其教に依り衆生の濟度を努むるの外、日本 皇帝陛下の韓國に莅まれて韓國人民に仁政を施くの目的を以て之を誘導開發すると云ふ聖慮を服膺し、布教上に於て成るべく韓國民をして怨嗟の聲なからしめ、我 陛下の韓國に對せらるゝ處の優渥なる聖旨を貫徹するに努められん事を望み、且つ日韓兩國民をして益々融和し親密ならしむる事に努むるに於て、極めて公平の考を以て愛憎懸隔なき様盡力せられん事を望む。而して一面に於ては韓國の發達を圖り、此を誘導すると共に、一面に於ては 皇帝陛下の恩澤をして汎く韓國に洽ねからしむる様努められんこと

を希望す。之れ統監として切に一般布教者に對し望まざるを得ざる所なり。何卒、各布教者が此の主旨を體して益々精進せられんことを。之れ予の切望して止まざる所なり。

普通教育に従事する日本人教師に訓諭

(明治四十四年四月)

本官は主として今回新任せられた諸君に一言する。韓國の普通教育を普及改良させることになつて、昨年から着手して少しく其緒に就きかゝつて居るが、まだ創始と謂つても差支ない程である。諸君は今日迄自國に於て教職に従事して居られたのであるが、外國に來て外國の兒童を教育するのは、自國に在て自國の兒童を教育するよりは遙に困難であると信ずる。故に、諸君が今からこの韓國の兒童を教育するには、自國の兒童を教育するよりも一層の熱心と勤勉とを以てやつて貰ひたい。教育の實績を擧げるには、父兄の信任を得ることが第一である。諸君は徹頭徹尾誠實と親切とを以て兒童を教養するが善い。決して表裏があつてはならぬ。

韓國にも昔から全く教育といふものがなかつたのではない。夙に支那の文化を輸入して、仁義禮智忠信孝悌の道は深き根柢を有して居る。取分け禮義の點に至つては、充分重きを置いて居るのである。故に諸君が今日の所謂普通教育を新に普及するにも、この舊來の風習を重んじて、是に悖ることのないやうに注意せねばならぬ。

教育の効果は一朝一夕で得らるゝものではない。任に當る者は、宜しく効果を永遠に求むることを心懸けねばならぬ。韓國の如きは、未だ普通教育の何たるを解せぬ者が多いから、恰も保姆が幼稚園の兒女を扱ふやうな積りで、根氣よく、叮嚀にその兒童を教導せねばならぬ。諸方面から視察して見ると、韓國人は決して文明に進むの素因がないのではない。諸君が十分なる熱誠を以て教導したならば、圓滿なる効果を收むることが出来ると思ふ。

尙特に注意して貰ひたいことがある。それは、教師たるものは、政治宗教の事に就いて彼此評論をしないことである。假令社會の風潮が如何であらうとも、一意専心教育のみに力を盡せば善いのである。政治や宗教の事は、別に其れに當るものがあるのである。教育家たる者は、單に其本分たる教育にのみ熱心にして、他を顧みる必要はない。韓國にも歐米諸國の宗教家が澤山來て布教に従事して居る。その目的とする所は勿論布教にあるけれども、其方便として兒童の教育を

やつて居る。しかも其教導に熱心なことは非常なるものである。若し政府の設置する所謂官立や公立學校の教師たるものが、これに劣る様なことがあれば、相濟まぬことである。

宗教は、其佛教たると儒教たると耶蘇教たるとに論なく、世人を啓發する點に至ては其途一であるから、彼を是とし此を非とする理由はない。我國では信教の自由は憲法で保障されて居る。韓國では別に是に對して、何等の制限はないのである。諸君は此點にも注意して、宗教家などのすることに對して猥りに是非善惡の批評等をなしてはならぬ。又諸君が兒童を教育するに臨んで最必要なのは言語である。如何に親切に誘掖しようとしても、言語の通じないためにその目的を達することの出来ない場合も少なくないと思ふ。諸君は教授の餘暇に韓語を及ぶことを忘れぬやうにして貰ひたい。是は切に希望する所である。

尙ほ風俗習慣の如きも、幾百千年の間に成立したもので、一朝一夕にして之を改め得るものではないから、決して輕率に之を非難し、又は急激に改變せうとしてはならぬ。注意に注意を加へて漸次に改良する心掛が大切である。是を要するに、韓國の啓發は教育に待つことが多い。從て諸君の任は、實に重且大なるものである。若し不幸にして教育の効果を收め得ぬやうなことがあるならば、日本帝國は韓國を啓發することが出来ないのである。返へすべくも諸君が、熱誠と勉

勵と周到なる注意とを以て、一意専心、教育の實を擧げ、圓滿なる効果を收むるの覺悟を心頭に置いて、教導に従事することを希望して已まぬのである。

利己主義を排せよ

(明治四十年四月十七日
韓國經濟協會に於いて)

諸君。私が此經濟協會なるもの、韓國京城に存在して居る事を承知したのは、誠に昨今のことであります。只今市原君の挨拶に據ると本會は昨年十二月に發會式を擧げたと云ふ事であるが、私は其當時東京に居つたので、經濟協會と云ふ赤ん坊が生れた事を昨今始めて承知したのである。此子供が生れたと云ふ事を聞いて、今回は御招きに預つた。而して此咄嗟の間に於て、何か演説をしろと云ふ御注文である。然し私は本會の爲に利益になるとか、又は其成長發達の上に於て有益なる意見を發表するとか云ふ機會には未だ到達せぬと思ふ。會員諸君の此後の遣り方に依り、自然自分も意見を述べる機會が来る事と信ずる。私は此會の會員ではない。今日は統監としての資格でも又一個の伊藤博文と云ふ資格でもよいが、兎に角御客様である。然るに其御客様が他人の家庭に就いて彼れ是れ申すのは、甚だ面白からぬことで、一家の不和を來す虞れがあるかも知

れぬ。

さて、今日はラッド博士も本會の招に應じて列席せられた。此人は諸君の知らるゝやうに、世界に於ける有数の學者である。従て見聞も廣く、定めて名論がある事と信するから、諸君が宜しく此博士の意見を聞かれん事を希望する。博士は私の知友で、先般歸朝中、日本で面會した際に今回の來遊を機として是非韓國に渡られ、親しく此國の現状を觀察して貰ひたいとの希望を述べた。私は統監として赴任以來、韓國の開發と云ふことに就ては力の及ぶ限り盡して居る考であるが、由來物事は、自分のする事は自分で能く其是非を判斷する事が困難である。支那人の諺にも他山の石以て玉を磨くべしとある通り、兎角自己の短所は無關係者の觀察程には分らぬものであるから、是非博士を煩はして充分に公平に觀察してもらひ、夫を大に參考としたいと云ふ希望があつたからである。決して自分は何か政略的に博士の來遊を促した次第ではない。前述の通り自分が統監として赴任し、韓國民を文明に誘導する上に於て、博士の公平なる觀察を聞いて、改める事は大に改めやう。改め得ない事は己むを得ぬが——兎に角、晴天白日の志で博士の來韓を求めた次第であります。此の事は最初横井時雄氏を介して博士に詳しく通じて置いたから、博士も必ずや予の心事の那邊にあるかを諒せられて居る事と信じます。

さて自分が茲に一言して置きたいと思ふことは、此經濟協會とは何等の關係も無い問題であります。それは世界の大勢より觀察したる日本の地位に就てである。我日本は僅か十年の間に兩回の戦争を行つた、即ち一は清國との戦争で、他は最近の露國との戦争である。此兩回の戦争により、世界に於ける日本の地位は果して上つたか否か、之に對する世界列國の判斷は如何であるかと云ふ問題である。果して日本が他の國からして大に重んぜらるゝに至つたものならば、我日本が他國に對する責任も大に重くなつた譯である。我々日本人は能く此點を考へねばならぬ。

古來文明の定義に就いては種々の説もあるが、兎に角、文明の進歩は、人類社會の道德を重んじ、全局の利益を顧み、他人を利すると同時に己を利するといふ方針でなくては、決して期せらるゝものではない。他人の力を削減し、他人の利益を奪ひ、他人を壓倒するといふことよりも、先づ以て己の力を増し、夫で以て一般の進歩に貢獻するといふ方針でなくてはならぬ。素より社會の組織は、世の發達につれて、小なる區域より大なる區域に擴大するものである。又その組織も色々と複雑になつて来る。國家と社會とは其觀念を異にして居る。彼のロード・ビーコンスフィールドが定義を附するに困つたといふ國籍の論、それから人種の別、宗教の差、凡て人類の社會を見るのに様々の觀察點があつて、隨つて文明の進歩を期する上に於ても、種々の方面から研究

をし、又種々の方面から力を盡さねばならぬが、兎に角世の中は騒々として進歩しつゝある。此文明の力によつて世界の暗黒面は日々に除去せられ、人類全般の幸福は日に増加しつゝあるのである。我日本も自ら文明に進むと同時に、世界の文明にも貢献する所があつたか否か。四十年來の歴史は明に之を證明して居る。

我日本が兩回の戦争をした結果、東洋の事情は稍々世界列國に紹介された。然し是れも海岸に近い、交通の便利な部分に過ぎないのである。彼の中央亞細亞や西比利亞等の事情に至つては、僅少の人々が踏査したのみで、僅かに其人々の書き著した書籍に依つて世界の人々に知られて居る。衆人が見て以て事實の真相を判断するの材料と爲すには足らぬのである。此は獨り東洋のみに限らぬ、歐米に於ても未だ充分の觀察が行届いて居らぬ。英國の如きは、總ての交通機關を有し、且つ比較的他國の事情に通曉した國で、即ち極東南洋及亞弗利加の事情も相當に分つて居るが、然し日清戦争開始以前に於ける英國の東洋觀は如何であつたか。彼のイヤープックを見ると清國には六十萬の兵を有して居ると書いてあり、如何にも有力なる兵備を有せる如く世界に知られて居つた。然るに日本は、朝鮮問題の爲に、端なくも此大國である支那と砲火の間に見える事となつた。而して我日本は特有の愛國心に訴へて見事に勝つた。即ち日本人は勇氣と武器とに依

つて勝つた。武器は有形的の事物であるが、勇氣は無形の精神である。而して此勇氣も文明的でなくてはいかぬ。近時文明の進歩と共に、戦争をするにも其方法があるのである。即ち戦争も戦時の公法に依つて戦はねばならぬ。換言すれば徳義の觀念を以て戦争をしなければならぬ。所で日本は、日清戦争に於て、果して公法を重んじ、徳義の觀念を以て戦争したかと云ふに、全く文明の戦争をしたのである。例へば我赤十字の行爲と云ひ、又捕虜の待遇の方法と云ひ、殆ど世界列國をして非難の聲を擧げしむる餘地がない位であつた。次で最近の日露戦争に至つては尙一段の進歩を示した。我日本は實に最近十年間に於て偉大の進歩を爲したものと云つて差支ない。殊に自分は日本開國以來の歴史を實際に目撃して居るから、今より回顧すれば、事實の經過に就て一々明確なる判断を下し得る地位にあるのであつて、日本に於ける進歩變遷の跡を考へ來ると、自分自らも只其急速なるに驚く位である。日本の開港以來、幾多の對外問題が起つて、世は王政復古となり 皇帝陛下の御代となつた。而して我日本は數十年來の舊慣を打破し、汲々として世界文明の輸入に務めた。如何なる歴史をも顧みず、彼れの長所を探り我短を補ふに務めた。果斷と云はうか、將に英斷と云はうか、兎に角世界に於て見る能はざる大決斷を爲したのである。此の如くにして我國は教育と云はず政治と云はず、兵備、運輸、交通、商工業等、皆な刷新開發の

端緒を得たのであります。此大進歩、大變遷の結果、日本は大國の伍に入つて、確に世界より重んぜらるゝことゝなつたが、然し乍ら諸君、日本が今日の如く世界に重んぜらるゝに至つた一原因は、確かに日本の政策が利己主義でないことに在る。日本の政策は決して私利を計らぬのである。現に今度の大戦も、門戸開放、機會均等を標榜して起つたのである。若しや我國が利己主義を政策とするに至らば、我帝國の有せる聲望は一朝にして失墜するのである。私が統監として此地に赴任し、韓國の啓發に従事するに就ても常に此意を以て方針として居る。日本人さへ繁榮すれば、韓人はごうなつても構はぬといふのではない。日本人さへ儲かれば、韓國の野は荒廢しても宜しいといふのではない。河水は氾濫しても關せずといふのではない。日本人も進歩し、韓國人も發達せねばならぬ。即ち此國に於ける日本人は、矢張り國家の政策と一致して發展すべきであつて、利己主義に流るゝは國家の大政策と照應せぬといふことを記憶せねばならぬ。此の韓國經濟協會も、亦非利己主義を方針として經濟の研究をしてもらひたい。鑛山の採掘、耕地の整理其他に就ても、區々たる利己主義を棄て、大局の上より打算して、利益ある方針を執られん事を希望する。私は日本國を代表し皇帝陛下の天命を奉じて此地に赴任し居り、諸君が斯かる有益なる會を組織せられて、韓國の經濟の發展を期する事に努められるのは、私の衷心より賛同する所

であります。私は若い人々の會合に臨む毎に一種懷舊の感に打たれる。それは今日は種々の點に於て萬國共通となり、各國民は互に胸襟を開いて文明の開發に努めて居るが、我々の青年時代に於てはそう云ふ思想でなく、一番の耻辱は即ち天下の耻辱と云ふ有様で、苟も他藩が自分の藩に耻辱を與へれば、恰も今日國辱を受けた様な感じがした。然るに世の進歩と共に、此の思想は一大變化を來たした。殊に經濟上の資本供給の如きは、世界共通となつて來ました。私は當時を追想して彼我比較して世の變化の著しいのに驚かざるを得ないのである。明治の初年は、今日生れて四月にしかならぬ此の經濟協會と同様に眞の赤ん坊であつたが、今日の如き大發展大變化を示した。本協會も必ずや將來大發展を爲すに相違ない。今夜は諸君の御招きに預り、私は會員ではないが、各方面の有力なる紳士諸君の御會合と聞いて喜んで出席した。而して聊か日本政策の公平にして世界の賞讃を得る所以を説明した次第である。終りに臨んで本會の益々隆盛ならんことを希望します。

宗教家に韓人救済を求む

(明治四十年六月二十日、米國メンヂスト
教監督スクラントン博士の園遊會に於て)

今日はスクラントン博士の御招待に依り、此處に諸君と相見ゆるは予の最も愉快に感ずる所なり。諸君の多くは始めて面會する方々にして、之より自分の言はんと欲する所は、從來韓國人及日本人に對しては屢々陳述したる事なるが故に、決して珍らしき談話に非ざるも、予は赤誠を以て諸君の清聽を暫らく汚さんと欲するなり。予の當國に於ける任務は、日本を代表して専ら韓國を指導保護するに在り。予は韓人に對して多大の同情を有し、目下の憫むべき境遇より彼等を救出せんと欲して盡力しつゝあり。此點に關しては、諸君も亦均しく韓人を救はんと欲するの目的を以て當國に働かるゝも、専ら宗教道德の方面より盡力せられ、予は政治行政の側より盡力するが故に、其取る手段方法は異なれども、其目的を同うする者なれば、自分は諸君に對して充分なる同情と出來得る限りの援助を與ふるに躊躇せず。諸君も亦予に對して熱心なる同情援助を與へらるゝを疑はず。政治的關係は過去數百年に涉りて歴史を論述するは非常に長き時間を要するが故に、之を省略すべし。只兩國は地理上最も密接にして、離るべからざるの關係に在り、日本は韓國に對して此密接なる關係を保存し維持する外、他に目的なし。諸君の見らるゝ通り、韓國

は未だ近代的の意味に於ける組織ある國家、即ち法治國家に非ず。故に各種の方面より予は韓國人民の状態を進めて、此程度に達せしめんと努めつゝあり。果して此重大なる任務に成功するや否やは、神の外知る者なし。只予の期する處は、微力の及ぶ限りを盡して此目的を貫徹するに在り。尙ほ此機會を利用して諸君に一言陳述致し度きことは、多數の在住日本人中には非行を働く者も之れあるべしと予に於ても認め居れり。實に是れ遺憾の事なれども、已に非行の存在する上は之を黙過すべきに非ざるが故に、予は全力を盡して之を矯正しつゝあり。然れども又韓國人中にも非行をなす者も少なからず。此等に對しては、諸君が宗教上の働きの範圍の許す限りに於て矯正に努められ、互に協力して韓人の状態を改善する事に盡されんことを望む。

韓國の農業と日本移民

(明治四十年十月三十一日、京城花
月樓に於ける中央農會總會に於て)

諸君。韓國の農事は素より今日の緊急なる問題として研究する價值あることは論を俟たず。昨年統監府の創設以來、未だ專一に之を研究するの餘地を有せず、従つて未だ如何なることより之れに助力を與へ、如何なることより着手すべきかといふことに就きては、方案も定め居らず。本

日は諸君が茲に集會して、韓國各地の實驗に付き研磨することを聞くを欣ぶ。農事を政治上より獎勵し助力を與ふるの必要は已に之れを認め居るも、政府として力を添ゆるには早晚多少の經費を要すべきを以て、當韓國歲入の僅々たる今日に於て、之に餘力を用ゆるは難しと信ず。韓國の地質或は氣候等に付ても、農學者の専門的に之を研究するの必要あるべく、又各地に於ける實驗者の經驗と相俟ちて考察するの要あり。之に付ては中央農會は最も適當なる貢獻者たりと言ふべし。農事の改良を計るに於て、政變の關係より未だ十分なる計畫を立てる時期に達せずと認むるを以て、諸君の耳目に觸るゝ程の施設經營は直ちに爲すを得ずと雖も、予は韓國の發展を計るに於て、最も農事に重きを置けり。是れ韓國現在の狀態及經過よりして最も入り易く且つ有益なりと認むればなり。但し一般農業の發達を計るには専門家の研究に待つを要し、其改良發展上に如何なる政策を取るべきかは考慮中に屬せり。而して今日諸君の茲に會合して集めたる研究の結果は、何れ報告に依り聞かんことを娛み居れり。棉花米作等に付ても、木浦、群山、全羅道及江原道方面に於て試験中なるを聞けり。其結果が直ちに同地と同一の好果を收め得べきや否やは疑問なれども、之を補足し改良せば發達せしめ得べきは疑を容れず。然るに之には少からざる歳月を必要と爲すべく、又韓人が日本人の例に倣ひて直ちに之に努むべきや否やは疑問なり。何れにし

ても、韓國は殖産上最も下級に在る者なるが故に、之が改良には韓民智識の發達を要し、資本の供給を爲さざるべからず。又其資本の供給に付ては一時に大なる計畫を立てるは難からんも、自から其順序方法はあるべし。牧畜、林業の如き事業も、薪炭等の關係よりして、其の困難と必要とを考察するに難からざるなり。之れに對して政府の採るべき方策如何は、日本の維新後の事績に鑑み、韓國に於ても至難の事たるは、自分の腦裡に反映する處なり。例へば樹木を亂伐するの弊より、歐洲に技師を派遣して植林を勤め、養蠶を獎勵せる等、大久保務卿と共に苦心せる事あり。之には一時國債を起して計畫し、其他治水の事業に付ても久しく苦心の經驗を有せり。然るに韓國は直ちに日本と同一視すべからざれば、農林業に通曉せる技師の工夫と經驗の結果に對して政治の力を及ぼすの外なかるべしと信ず。又日本人が韓國に移住するにしても、直ちに衣食の道備はらざれば移住し來るべきものに非ず。今日は京城其他の土地に於ても建築或は鐵道改築の事あるが爲め、大工左官の在留するもの多しと雖も、此等は工事の無くなると共に他に移るべきものなるを以て、之を永住的の移民とは見るべからず。農業を目的として移住するものに付ても、相當の人員に非れば其効果を收むるに難く、韓國の面積は八萬乃至十萬方哩にて、其耕地は約八百萬町歩なりと云ふ。一年に五萬人移住すとすると十年に漸く五十萬人に過ぎずして、此

れ以上の事はなかるべしと信ず。又之に付き韓人は悲觀して、全く土地を掠奪せらるゝ如く思惟せんも、之は無用の憂慮なり、要するに日韓人相扶け農業の發展を期せざるべらず。又其移住に付きては、内地人に便法を示すの必要もあるべし。之に付ては本會の如き與りて力あるべく、統監府及び政府も成るべく助力を與ふるの考なれば、各位益々奮勵して韓國の發展を期せられんことを望む。

京城小學兒童招待の辭

(明治四十年十一月十七日)
(統監官邸庭園に於て)

京城小學校並に附屬幼稚園生徒千五百名を招待し、園遊會を催し、官民百餘名亦之に參會し、當日公が後丘上り口の岩頭に正立し、兒童に對して訓話されたるもので捨て難きを惟つて茲に掲ぐることにした。

あいこら。お前達は過般日本の皇太子殿下が渡韓せられた節、能く拜したかどうだ。(生徒中能く拜しましたと呼ぶものあり)。宜しい。我皇太子殿下は去る十月十日東京を御出發、同十二日宇品より軍艦に召され、中國と大分との間即ち佐賀の關と云ふ處を経て外海に出でられ、仁川に御着きに相成つたのである。御滯京中の事は皆見た通りであるから茲に言ふの必要はないが、殿下

には仁川御出發後、鎮海灣を経て佐世保に御上陸、利根の進水式に臨まれ、長崎の共進會をも御覽の上、鹿兒島、宮崎、大分、高知の各地御巡視、去る十四日を以て漸く東京に御着に成つた。然るに當日は、天皇陛下が恰も大演習行幸の爲め御發聲に付き、新橋より直ちに上野に赴かれ、停車場に於て御會見あり、韓巡視の始末を詳細に奉上せられた次第である。抑も皇太子が海外に出で交誼を訂せらるゝ事は古來絶えてない處であつて、凡そ一箇月餘も波風荒き海上に尊い御身を洒させらるゝ事は非常の御奮發と言はねばならん。今日の時節は昔と違ひ皇太子ちやからというて徒らに宮中に於て安逸に日を暮す譯には行かぬ。即ち外國の帝室を訪問し、見學の爲めに各地を巡視せらるゝ事は、取りも直さず其職分を盡さるゝ所以である。予も來月初めには東京に歸るに依り、當分お前達と途中で逢ふ事もなからうが、其節は韓國皇太子をも同伴する事を頼まれて居る。殿下が再び歸らるゝ時には、お前達は既に大人と爲る位であらうが、韓國の皇太子が日本に遊學せらるゝ事も之れ迄にはないことで、今日は實に重大な機會である。古人も百聞一見に如かずと言はれたやうに、今日茲に來會して予の話した處は永く記憶に存し、他日に至り統監がア一言はれた事もあるがと回想すれば自然奮發する基ともなるのである。今日は恰かも一昨年日韓條約の成立した當日であるけれども、強ち之を祝すると言ふ爲めではないが、幸ひ天氣も晴朗

で且つ日曜日でもあるから、此の會を催したる次第である。生徒も職員も能く前述の趣意を諒して、後丘に遊び、辨當でも食うて互に遊戯し、十分の歡を盡されんことを望む。

韓國農業の發展を庶幾す

(明治四十一年五月十五日)
水原勸業模範場開場式に於て

貴婦人、閣下及諸君。本日勸業模範場の開廳に際し、各位の來臨を辱うせるは悦びに堪へず。當模範場は、帝國が卒先して韓國の農事を改良するの端緒たり。蓋し農事の改良は、韓國に於ける各般急須の事業中、最も緊切の事に屬す。今日の國民生活の上に直接關係するは、獨り農事なればなり。而して其改良は全く文明の技術に依るの外なきに拘らず、韓國民の農事の改良増進に關して未だ盡力せる者あるを見ず。今回創設の模範場も僅かに掌大の規模なりと雖も、其速かに有效なる改良の種たらんことは予の切望する處なり。此模範場は日本政府に於て創建し、曩きに韓國に讓附したるが、韓國政府は其模範的研究を盡し、韓國の農事を改良進歩せしむるに於て眞直ぐに之を引受け且つ奏功せしめん事を望む。其各般の經營が、單に一種の玩弄物と爲り了るが如きは予の欲せざる所にして、韓國政府が之を完成するの熱心あるや否や、予の懸念する處な

り。今日農民の狀態を顧みれば、只口を糊し其日を送るに過ぎずして、當局有志は管に助けを與へざるのみならず、却て之に害を施す位なり。然れば此模範場を完成し國民幸福の増進に有効の結果を與へんことは、韓國方今の急務なり。從來韓人の素養ある儒教に於ても、農は國の大本なり、農に依りて衣食を給し、衣食足て禮節を知ると云ふに非ずや。此の簡單の數語は以て何れの邦國にも適用すべし。但し輓近文明の諸國に於ては、農商工業、運輸、交通の各事業に涉りて發達せり。韓國に於ても林業、鑛業等、皆必要なるに相違なしと雖も、而も國民の生活上に直接關係するは農業なり。又其國家の富強を企圖する上に於ても、農事の改良を第一となすべし。我日本は維新以前即ち封建の昔に於ても、韓國よりは進歩して居りしが、尙ほ明治の初年に於て農學校を創設し、歐米の文明を輸入して改良したりき。即ち故大久保利通公は、明治七八年の頃卒先して之を唱道せり。爾來農事の研究は益々進歩し、僅々三十年間に於て異常の増進を來せる事は統計表の證明する處なり。今や本田博士其他の諸學士が、韓國風土に適する農産の研究に付き熱心に從事しつゝあるを以て、政府並に地方官が忠實に之を實行せんには、其改良發達も亦期すべきなり。本日は當模範場の開廳を喜ぶと共に、僅かに此端緒を啓きたるに安んぜずして、各位の奮勵以て有終の効果を收めんことを切望して止まざる次第なり。

新義州の經濟的地位

(明治四十二年一月卅日)
(新義州歡迎會に於いて)

本日當地に於て日韓兩國居住民諸君の厚意に依り、我等が韓皇陛下の北方巡幸に際し此地に來れるを以て、特に我等の旅中を慰藉せられんと欲して此の歡迎會を設けられたるに就ては、諸君の厚意の在る所を諒して諸君と共に歡を盡すは最も欣幸とする所なり。諸君の好意に對して愚見を陳述して諸君の資料に供することを得ば、喜んで爲さんと欲する所なるが、自分は韓國に駐在以來已に三年の星霜を経たるも、此地方即ち京城以北の地を踏むは今日を以て始めとなし、京城を去り平壤に一泊、當地に一泊、義州に一泊して再び此地に歸れり。出發以來僅かに數日を費したるのみ。此間に耳目に觸るゝ所は、鐵車の走るに従つて巍々たる山嶽茫茫たる郊野等、山河の形勢を眼中に止めしのみ。未だ以て到る處國民の境遇及其貧富の狀況等を知るの暇を得ず。人は百聞一見に如かずと言ふと雖も、自分は未だ百聞一見に如かざるの益を得たりと自稱するの時間を得る能はず。行路の間匆々に經過して漸く此の地に來り、諸君に向つて訓示などするの事は思ひも寄らず。幸に 韓皇陛下の臨幸に就き、自分も共に西北を巡廻せんことを希望せらるゝの宸

慮を諒とし、陪從に加はり、一は以て 韓皇陛下が日韓兩國の親和に深く宸襟を勞せられ韓國の扶植繁榮に就て本官と共に將來を企圖せられんとするの聖意に酬い、一は以て自分の見聞を廣めて韓國の開發進歩に資する所あらんと欲し、此の沍寒を冒して當地迄來りたる次第なり。

蓋し此地は清韓兩國其邦域を接し、中に鴨綠の大江を横たへ、極目四方より望めば茫茫たる平原にして、鐵道の車窓より見るに、農作の有様は南方と異なり支那北方の形勢に殊似するものありと信ず。此地は戰爭に依て新に開かれたる貿易場にして、全く此廣原の中に大江に沿うて江水を利用し、此に一市場を開かれたるものと信ず。此まで新義州の名を聞くこと久しと雖も、如何なる地形なるや如何なる市場の模様なるやは今日始めて來りて之を目撃し、熟く前途を觀察すれば、此地が到底此地其物に依りて發達すべきものに非ざること、一目瞭然なりと言はざるを得ず。故に此地の將來に發達するは、安奉鐵道成就して而して清韓兩國の此地方に於ける發達、否寧ろ清國東三省の發達如何に依りて此地の盛衰を爲すものと見て違算なからんと存す。已に當地と安東縣間の架橋の事も定まり、且又、安奉鐵道も改築工事に着手せんとするの今日に際したれば、此地は此安奉線と京畿線との聯絡に依りて發達を期待するの外なしと考ふ。

併しながら韓國北方の形勢は、滿洲地方の形勢に比して、尙ほ其の發達は頗る遲緩ならんと言

ふの外なし。加之此地方の農産物或は木材の産額は今日は實に尙ほ微々たるものなり。固より木材のことは別種の議論にして、目下、鴨綠江の水源に於て、日韓兩國政府共同して營林廠の經營を爲しつゝあれども、之とても報告に徴すれば到底急激の發展を望むを得ず。凡そ事業は需要供給の原理に基くものなれば、如何に發達を望むも、需用即ち販路の擴がるに従はざるを得ず。而して韓國北方の形勢を見るに、急に産額増加の希望を充たすを得ずと考ふ。固より何れの國も同然なるが、韓國も産業の發達を計りて物産を増殖し、之を國外に出し、其販賣する所を以て購買力を増すの外なし。従つて當地の發達は言ふ可くして容易に其目的を達すること難し。併し乍ら滿洲鐵道と韓國の南北を横ざる鐵道とが連絡完成すれば、此地方に往來する旅客も増加し、之と共に消費物の數も増加せん。當地の發達は暫く之に重きを措くの外なかるべし。

諸君は此地に住居するものなれば、自分の一二日の視る所よりは、諸君の實見に基く經驗に重きを措き、研磨怠らず此地の繁榮を圖るに努められんことを請ふ。支那全體に就て考量するに、滿洲地方は、未だ其の文化も中原に比すれば及ばざる而已ならず、資力を要する殖産事業、人工を加ふる製造業の如きも發達せざれば、比較的未開と言はざるを得ず。然れども運輸の便開れば其地方は従つて開化に赴くが故に、滿洲將來の發達は、其餘力の及ぶ所、當地方の繁榮に影響

するは疑ひを容れず。併し乍ら之れ又急速なる發達を望むことを得ず。故に此地方に住居する人は將來の發達を待つ爲めに、忍耐力を維持すること最も必要なり。随つて此の地の繁榮を望むものは、今日より力の及ばざる計畫を立て、資力の不足なるより事の成就せざるに先だちて早く失敗に歸するが如きことなき様希望に堪へず。斯の如き注意を加へ漸を以て進まば、將來此地の發達は疑ひなしと信ず。

物は因なければ果なし。交通の發達に依つて地方の繁盛を來すは必然の事なり。以上は自分が此地方を巡廻し見聞の尙ほ不足なる今日に於て所見を陳述したるものなれば、未だ以て確信と爲すを得ず。諸君自ら考慮して將來の發達を期せんことを望む。自分は今日此地方を經過し、心中に浮びたる所を吐露したるに過ぎず。歡迎會開催に關する諸君の厚意は、萬々自分の心に銘記して深く諸君に感謝する所なり。

韓國の國力

(明治四十二年二月一日、平壤
箕陽俱樂部の歡迎會に於いて)

諸君。日韓兩國國民の共同歡迎會に列席する諸君に對し聊か愚見を陳べ、諸君が懇切なる好情を

以て此會を設け我等の旅中を慰藉せらるゝに對し、答ふる所あらんとす。僅々數分間に於て、諸君に對し充分我が所見を吐露するは期し能はざる所なれども、大要を陳べて諸君の希望に答へたし。韓國 皇帝陛下が此の邪寒を冒し、南北に亘りて龍駕を枉げ、國民の狀況を視察せらるゝ盛舉の理由に就ては、業に已に諸君の了解する所なるが故に、重複して茲に之を陳ぶる必要はなきも、固より韓國の臣民たるもの及び當地に客居する日本人も、等しく君主が玉體を勞せらるゝに就いては、其恩遇に浴すること疑ひなく、隨つて又諸君が熱誠以て鳳駕を迎ふるは、其所を得たるものと信ず。曩に韓南地方に行幸せられたる際に當り、彼の方面の日韓人より要求せられ愚見を陳述せしことは、已に新聞紙にも上ばりたれば、蓋し諸君の熟知せらるゝことと存ず。彼の方面に於ては、日本國は韓國を保護する所以を専ら政治的見地より陳述したるが、本日當地に於ては「韓國の國力」なる標題の下に愚見を陳べて諸君の參考に資せんとす。

日韓兩國の關係は離るべからざるの理を以て成立したるものなり。之を明細に説かんと欲すれば長時間を費すを以て、殊更之を省き、國力なる標題の下に一言せんと欲す。韓人たる諸君は必ずや自分の陳述する所を聞き、自國の境遇に想到することと考ふ。自分は日本國を代表し、大日本 天皇陛下の天命に基き、此地に莅み、韓國を保護扶植するに就ては、自己の微力を顧みず

滿腔の熱誠を以て其命に背かざらんことを努め、且つ韓國々民の狀態をして益々進運に向はしめんと豫期するものなり。豈敢て韓民を欺むくが如き野卑なる意思を抱くものならんや。斯る意思を抱くは、我 天皇陛下の敎旨に悖るものなることを、夙夜念々記憶して遺忘せざる所なり。韓國國勢の衰微するや已に久矣。獨り今の李朝に於て之を見るのみにあらず。高麗時代より已に衰境を來せるを信ず。其以前に溯りて韓國の文獻に徴し事物の跡に就て見れば、新羅の盛んなる頃は、日本國は重に韓國に就て學びたり。其當時韓國の文物及韓國の物質的文明の多く日本に輸入せられたる事蹟は、今も尙ほ歴然として日本に存在す。古盛にして後世衰へたる國の再び興らざるの理なきを發見するは敢て難きにあらずと信ず。故に已に南方に於ても、自分は韓國人に向つて、韓人決して日本人に劣るものには非ず、支那人に對して遜色なしと陳べたることは、我演説を讀むものは必らず記憶せらるべし。自分の諸君に言はんと欲する所は、諸君願はくは虚心にして之れを聽かんことを望む。日本が韓國を保護し援助し、韓國の文化及び物質的の進歩を計らんとするは、即ち國力消長の問題に基因するものなり。如何に排日思想の生ずるも、反對論の起るも、韓國の國力を養成せざれば、徒らに言論のみにては何等爲す能はざるにあらずや。日本は韓國を扶植して與に共に東洋の平和を全くせんと欲するものなり。之より本問題の韓國の國力は如

何に微弱なるものか、諸君は或は熟知するやも知れざれども、我見る所を一應陳述すべし。予が幼時我師たる吉田松陰なる者に就て學びし際、師が吾々に教へたる言を引用せむ。地理を學ばんとする門人に向つて、我師は曰く、地を離れて入無ければ事も無しと。實に然り。地在りて而して人あり、人在りて而して事あり。諸君は常に韓國には二千萬の同胞ありと云ふ。二千萬の人口あれば誠に結構なるが、一昨々年着任以來、韓國の人口を調査したるものを見るに、固より不完全不確實は免かれざるも、韓人が二千萬と稱道するは頗る無稽の言なるを證明するに足るものあり。所謂人口は國力の本なり。之を如何にして調査したりやと云ふに、韓國には從來多少統計の如きものなきにあらざるも、信據を措くに足るものも無し。依つて全國十三道各部に就て、各道警察監督の下に面長に命じて取調べしめたり。取調の事項を詳細に陳ぶるの必要はなきも、統計に依つて見れば韓國の戸數は二百三十三萬三千〇八十七戸にして、人口は九百七十八萬一千六百七十一人なり。此數は固より精確なるものとは認めざるも、稍々確實に近きものと信ず。然らば之を概括して韓國人口一千萬と見て大差なかるべし。人口は實に國力の原素なり。之を各道に分ち各部各面に亘りて詳細に説明すれば時間を要するが故に之を省くも、大體は右の通りなり。

次に財力の問題に就て言へば、今より五年前即ち光武九年の韓國租稅總額は三百四十七萬三千

四百〇二圓と計上せり。其節目は之を省く。而して其翌年即ち光武十年は統監府を置きたる年なるが、租稅總額は六百七十七萬五千二百二十五圓、翌隆熙元年即ち今上皇帝即位の年は一千〇三萬八千五百三十九圓にして、昨年は減じて九百四十八萬四千五百八十三圓となれり。之れ主として暴徒蜂起の影響を受けたるが爲めなり。而して本年度の豫算は租稅總額を一千〇四十六萬八千二百〇二圓と計上す。右は租稅に屬するものなれども、此外に印紙收入、驛屯諸收入、煙草及官有財産收入並に雜收入を合計し、本年度の韓國の經常歲入は一千三百八十四萬八千四百四十三圓なり。之に次で臨時歲入七百五十八萬六千二百八十圓ある故に、本年度の歲入合計二千四百十三萬四千七百二十三圓なり。而して臨時歲入の主なるものは何なりやと言へば、自分が日本政府に向つて要求して實施せられたる日本政府よりの借入金なり。何故に此借入金を爲したりやと云へば、日本人を韓國政府に官吏として採用せしめ、韓國の政治を行はしむるに就ては、俸給旅費等多額の經費を要するを以て、形式は貸借と爲すも、實際韓國政府をして一文の利息も支拂はしめず、償還期限の如きも更に之を定めずして、殆んど韓國政府に奉職せる日本人の俸給に該當する額を、日本政府をして交付せしむることとせり。本年度に於ては其額四百六十五萬三千五百圓なり。故に日本は如何にも多數の官吏を韓國に採用せしめ韓國を喰潰すが如く思ふは大なる誤

解なり。

以上は本年度の豫算に基き歳入の大體を説明したるものなるが、歳出總計も亦歳入と同様の金額なり。

此處に光武八年度より隆熙三年度に至る地租の各年度收入額を取調べ、其増減を示したるものあれども、一々之を枚擧するの必要なし。唯だ耕作地の結數に就て一言せんか、今日に至るまで様々に増減ありたるも、隆熙二年十二月末日現在の結數は百〇一萬五千五百五十七結にして、此土地は即ち政府に對して納税の義務あるものなり。此の結數を更に各道に分ちたる明細書あれども、他は之を省き、單に平安南北道のみを擧ぐれば左の如し。

	結 數	税 額
平安南道	六六、五一七結	二六二、六五四圓
平安北道	四二、一九九結	一四七、〇五七圓

茲に一の驚くべきことあり。韓國に於ける租税の未納即ち之なり。開國五百三年より光武八年に至る十一年間の未納額を合計すれば、其額實に三百八十七萬三千六百九十八圓に達す。此未納額は決して韓國々民が納税を怠りたる爲には非ず。人民は已に之を納入せるも、地方官の私する

所と爲りて、未だ國庫の收入と爲らざるものなり。今日之を當該地方官たりし者より回收するは頗る困難のことに屬し、此際打切りて捨るの外なしとの論も無きに非ざれども、政府は自ら求めて猥りに損失を招くべきものにあらざるが故に、可成之を回收するの方針を採り居れり。但し如此ことは統監府設置以後は決して出來得べからざる事にして、韓國人民の負擔したる租税は爾來確實に政府に納まるなり。

外國との貿易は一國の經濟に至大なる關係を有するものなるが、韓國人が外國に向つて物品を賣却し、而して税關を通過したるもの昨年度に於て一千四百十萬九千圓あり。又外國より輸入したるものは四千一百〇五萬圓なり。故に之を差引けば買入るゝ力の如何に小なるかを明かに見るを得べし。自分が孜孜として韓國殖産興業の進歩を圖らんとするは韓人の購買力を増さんと欲する爲めなり。生産の力減ずれば購買の力涸渇するは必然なり。而して外國に輸出する物品を多く産出せんと欲せば、殖産興業を進むるの外なし。輸出入を合して一箇年尙五千五百萬圓内外にては未だ以て取るに足らず。此一點のみを以てするも國力の微弱なるを明かに示すにあらずや。韓國各地には金銀山あり。昨年度に於ける正貨及金銀地金輸出入を對照するに、輸出の輸入に超過すること百七十七萬三千餘圓なり。固より金銀の地金を輸出すれば、其の代りには貨幣の輸入あ

り。此等の關係に就ては米人の經營に係る雲山金鑛の如きは、現に最も重きを爲すなり。韓人中或は米人の雲山に於けるが如く、外國人に鑛山採掘を許可すれば韓國の財寶を外人の手に奪はるるが如く思惟する者無きにあらずと雖も、是亦誤解なり。外人此地に來りて事業を經營すれば、韓人の之が爲めに衣食の途を得る者少なしとせず。加之、金の地金をば雲山金鑛の爲すが如く日本に賣出せば、其代價として貨幣は自ら韓國に入り來り、韓國の利益となるなり。

以上陳述する處は韓國々方の一班に過ぎず。尙ほ此外韓國の經濟狀況及び國民の資力如何を擧げて諸君に語らざれば全豹を示すに足らず。然れども頗る遺憾に感ずるは、言語の異同あるが爲めに通譯を用ゆるの必要あることなり。已に一時間半を費したれど、到底此席上に於て韓國々方の全豹を盡すを得ず。要之、日本が韓國に臨むて保護せんとするの趣旨は、韓國の國力を發展せしめんとするに外ならず。

而して國力が現に陳述するが如く微弱なる上は、諸君は國を愛し同胞を相愛するの心を以て自國の國力を増進するに努めざるべからず。予が韓國の爲に微力を致さんと欲して今日盡す所以は主として韓國々方發展に貢獻せむが爲なり。予は、日本人と韓人とを問はず、互に相親和し相提携して韓國の國力發展を圖らんことを切望す。

總ての事業は何人が之れを起すも、財源を開發して人間の用に供すれば、歸する所は其國の利益となるなり。日韓人親和して事業に従事し、各々扶けて互に猜疑の念を去れば、日本が韓國を保護し扶植せんとするの業を速かに進むを得べし。期する所は韓國の利益に外ならず。

諸君希くば自分の意のある所を諒し、時間少きが爲に詳細なる説明を爲すを得ざるも、日本の韓國保護は其國の發展を主眼とするものなるを記憶せられむことを望む。

予は此の演壇を去らんと欲するに臨み、滿堂の諸君が一人も異存なき發議をなさむとす。开は他なし、茲に韓國 皇帝陛下の萬歲を唱へんとす諸君須らく之に和すべし。

製鋼業の過去現在及將來

(明治四十二年八月十六日
室蘭日本製鋼所に於いて)

自分が最初洋行したる時に、第一に驚きたるは製鐵事業にして、歐洲の進歩は、武器の製造、艦船の建造、鐵道其他の交通機關及港灣の經營等悉く鐵に依らざるものなし。今を去る四十五六年前の事なれば、僅に記憶に存するのみにて詳細を語るに足らずと雖も、當時日本の形勢を見るに、開港後尙數年を出でず、大砲を鑄造するために巨利の鐘を降して之に充つるが如き始末にて

斯の如き状態にては、到底攘夷の成功は望むべからずと認め、歸來、國を開きて日本の國是を一變せんことを勸告し、漸くにして王政復古の國是と共に開國の方針を採ることとなり、爾來知新の手段に依りて進みたるは、諸君御熟知の通りなり。

明治四年、歐米に使節派遣の事あるや、自分も其班に加はり、巡回の命を受け、總員百二十三人にて歐米諸國を行脚し、歸朝すると共に征韓論の破裂、延て内閣の更迭となり、自分は工部卿に任せられたり。當時工部省所管の事業は悉く端緒ならざるはなく、之を鑛山事業に就て云へば諸種の鑛山中にて先づ釜石の鐵山を採掘することに決し、一人の獨逸人技師を傭聘し、之に日本人を附屬せしめて採掘に着手せしめたるも、終に成功を見る能はず、後に財政縮少のため全く之を廢して、二百萬圓内外の損失を招けり。當時の經驗に依れば、釜石は所謂「デボジット・アイロン」にて、到底充分の材料を得る能はず。鎔鑛爐に用ゆる白煉瓦即ち耐火煉瓦の如きも、輸入品を用ひたるが、品質不良のため鎔解せり。斯の如く日本に於ける鐵の事業は明治十四五年頃迄は更に進歩せず、加ふるに鐵の在る所は石炭に乏しく、石炭の在る所は鐵なしと云ふが如き不便あり、鐵の事業は凡て成功の見込なくして歲月を經過せり。而して明治十八九年の交に於て海軍の擴張を圖るの必要あり。吳、佐世保の製造場の端緒を啓けり。爾來八九年乃至十年を經過して

明治二十七八年日清戦役となり、黄海の一戦に於て我が艦隊は甚だしき損傷を蒙れり。當時の艦隊は諸君の御熟知の通り、其構造速力武器の點に於て、支那の艦隊に拮抗する能はず。僅に今日の所謂第二第三級の巡洋艦四五艘が我軍艦中の稍々優勢なるものに過ぎざりしが、黄海の戦争に於て其大砲を破壊せられたる結果、之を据替へんとするも代ゆべき大砲なく、彈藥は盡くるも之を補充する能はず、誠に困難を感じたり。是れ即ち我れに製鋼製鐵の設備なきの致す所にして、黄海の戦争より、大砲彈藥の製造は如何にしても日本に於て自ら之を爲さざるべからざるを切に感じ、所謂戦を見て矢を矧ぐが如き事なれども、急に今の吳鎮守府長官山内中將を歐洲に派遣することとし、廣島の大本營に於て、當時の海軍大臣西郷及今の山本大將等より、當時の行政當局たる自分に對し熱心なる希望ありし爲め、慥か百八十萬圓を臨時に國庫より支出して、山内を出發せしめたり。吳の製造所は其後面目を一新し、終に今日は一等戰闘艦を建造し、大砲は十二吋砲を鑄造し、之れに供給する彈丸も悉く同所に於て製造するを得るに至れり。

斯く日清戦争以後に於て、日本の製鐵事業が長足の進歩をなしたる所以のものは、畢竟、適當なる當局者と熟練なる職工の熱心と勉勵とに依るに外ならずと雖も、素と鐵の供給は日本に於ては乏しきが故に、一部は支那より之を仰げり。乍併之れとても漸く若松製鐵所の需用に應ずる程

度にて、多くは尙ほ未だ歐洲より材料の供給を仰ぎつゝあり。製鐵事業が日本の運命に如何に大なる關係を有するかは、殊更に之を詳説するの必要なし。尤も當工場に於て製造するものは、殆んど武器又は武備に必要な物品にして、他日、萬一、日本が若し局外中立の地位に立つときは、交戦國に供給すること能はざるものなり。また今日は、鋼は殆んど全く武器にのみ使用するも、將來は武器以外の目的に對しても必要なるは疑を容れざる所なり。今日日本にては、吳に於て少量の鋼を造るも大部分は外國に仰ぐの外なし。然るに此の製鋼所にして成就せんか、我が需要を充たして餘りあり。隨て東洋諸國に於て武器の需要あれば、餘力を以て之に應ずるを得る筈なれども、先以て自國の緊急缺くべからざるものを製造供給するを主たる目的とす。乍併、世上には之の事業の成功に疑を抱くものなきにあらず。固より技術上の成功を疑ふものはなからんも經濟上の成功を危むものあり。即ち當所は製造の規模大なるを以て、果して當所より造出するものを充分に需要するや否やに就て、多少疑を抱くものなきにあらず。然れども自分の見る所にては、日本の軍備を整頓し國民の必要を充す上に於て、是位の製造所の工作品を充分需要し能はざれば、日本將來の運命は知るべきのみ。故に自分は當製鋼所が壯大に過ぎ、經濟上不成功に終るが如き懸念を抱かず。加之此會社は、日英同盟の間接結果として、兩國資本の協同に依りて成立

したるものなり。此の同盟は、平素東洋の平和を維持するのみならず、一旦危険の際には如何に有效のものなるかを思はゞ、如斯利益の協同は、人情互に相親み、兩國民相援助する上に於て効果尠からずと信す。故に本會社の設立は、凡ての方面より觀察して、國家の軍備を充實し國民の發達を圖る上に於て、將來頗る有益なるを疑はず。願くは諸君協力勵精して會社の事業を成功せしめられんことを。

室蘭港の發展を庶幾す

(明治四十二年八月十六日)
室蘭歡迎會に於て)

諸君。韓國皇太子殿下見學の爲め北海道遊歴の爲めに、當地へ來遊せられたるに對し、頗る盛大なる歡迎を示されたるは、皇太子に代り諸君に感謝する所なり、皇太子は尙ほ幼年にして目下學齡に在り、殊に本邦渡航以來歲月淺く、語學を主として教導せざるべからざる時代にて、途中の歡迎等は豫期せざりき。然に諸君が斯く歡迎せらるゝは、日韓の關係に顧み、幼年なる皇太子を愛敬せらる情の溢るゝ所なりとして、韓國皇帝の倚托を受け、輔育の任務に膺る自分に於ても衷心欣喜の至に堪へず。且又自分に對しても諸君が頗る懇篤なる友情を表せらるゝは、自分の諸君に

對して最も深謝せざるを得ざる所なり。當地の發展は僅に昨日來目撃する所に依り、其詳細は之を盡すに足らざるも、耳目の觸るゝ所を以て、三十三年前に來遊の當時に比較すれば、殆ど想像も及ばざる所なり。要するに當地は天然の良港にして、海陸運送の便宜を有するが爲めに、石炭の發掘、鐵道の建設より、終に進んで此節の製鋼所の設立と相成り、既往三十三年間には驚くべき發展を遂げたるか、製鋼所成就の曉は、當港は帝國中屈指の最要港となるべきは疑を容れず。今日の狀況は、戦後の餘響或は其他の原因より、各種の事業多少萎靡不振の形跡を存するも、是は固より一時の事に屬するものと洞察せざるを得ず。將來の發達は、今より之を豫期するを得べし。當港諸君の幸福は、固より之に伴ふと云はざるを得ず。製鋼所設立の發端に就ては、本日其職員に向つて簡單なる愚言を呈し置けり。其筆記は何れ諸君も熟覽せらるゝことと思考すれば、之れ以外別に愚見を重複するの必要を敢て認めざるに依り、此處には諸君が熱誠なる歡迎の意を韓國皇太子に對して表せられたる事、及自分に對して特に此の集會を設けられたる御厚意を謹で感謝し、益々當港の發達して隆昌ならんことを希望す。

奥羽地方の發達を望む

(明治四十二年八月十八日
秋田歡迎會に於て)

御列席の諸君。本日は特に本官を歓迎せらるゝの御厚意に依りて此盛大なる宴席を設けられたるは、本官の大に驚き且喜ぶ所なり。只今本縣の知事森君の自身に對し朗讀せられたる本官の從來國家に關係を有することに就ての御賞讃に對しては、唯だ自分は背肝の流るゝを感ずるのみなり。乍併維新當時より今日に至り既に四十有餘年間政界に出入して、自分の誠意誠心の有らん限りを盡さんと欲して尙ほ今日止むこと能はざるは諸君の御諒察を乞ふ。其功績の有無の如きは敢て問ふ所にあらざるも、諸君が本官に對し特に微勞を賞せらるゝは深く感謝に堪へず。

此節は諸君御熟知の通り韓國皇太子の見學を専らとし、暑中休暇を利用し北方巡遊の途次當地に立寄りたる次第にて、實は斯の如き盛大なる歡迎に接せんとは只今述べたる如く驚き且謝する所にして、如何なる言辭を以て諸君に對する謝意を表して可ならんか、其言辭を撰むに苦む次第なり。又縣知事よりの御懇請に依れば、何か有益なる一言を述べよとのことなるが、卒然と當地に來り更に事情を熟知せずして諸君を益する一言を撰で開陳するは到底不可能なり。仍て之は御

斷り申すの外なし。只此行に於て當地方を巡回するに當り今を去ること三十三年前、即ち明治九年に 皇上陛下北方御巡幸より還御の後、三條太政大臣に北海道巡視の命を傳へられ、當時參議の職に在りて各々一省を管理せる者兩三人及び予も亦太政大臣と同行し、北海道巡視を終りたる後ち當地に參りたる事を追想するに、何分三十三年前の事なれば秋田の當時を回想するも記憶に存するものは少し。加之、爾來當地方の發展偉大なれば、今昔を比較すること能はず。又當時參りたる節は僅々數日の滞在なれども、面識の人々も多少無きにあらざりしが、今日は皆故人となり、恐らく自分と談話を交へたる人は此の席上にも殆んど絶無と稱して可なるべし。右様の次第なれば、當縣發展の比較論を爲すことも、又將來に向て如何なる施設を爲さずして可なるべきやも、憚て陳述し兼ねれば、是も亦御許を得たし。要するに今回の旅行は、前申す如く韓太子の見學を專一とし、他に目的あるにあらざるも、固より諸君に對して無言にして止むことを得ず。否諸君の御好意に對しては吾より進んで感謝せざるを得ず。太子の當地方巡視に際し、諸君の熱心に且つ最も懇慫に歓迎せらるゝは、皇太子其人に取りて幸福なるは勿論、諸君が斯く一致して之を迎へらるゝは、今日の日韓關係上に於て誠に妥當なることにして、自分は或は過言なるかも知れざるも、日韓人特に韓太子に代り諸君に對して感謝の意を表せざるを得ず。今日は交通機關の

發達と人文の開けたるとに依り、我が帝國の孰れの部分に於ける韓國に對する人心の動作或は著述新聞記事等も頗る敏速に韓國に達し、韓人の腦裡に響くなり。殊に此行韓太子が地方巡回に當り諸君の愛敬の念慮溢るゝことは實に明白なるが、是れは韓國の上は皇室より下一般人民に對し至大なる好感情を興へ、韓人の心事を察すれば必らずや我帝國に向て信頼し且同情を表する上に於て偉大なる功績を有することゝ信ず。此の點に就ては最も深く諸君に感謝せざるを得ざる譯合と存ず。今日は日本の事は勿論なるも、海外各國との交通も大に開けて、昨日歐米の都府に於て起れる出來事は、電信にて本日直に東京の新聞に表はれ、時を移さず更に地方の新聞に傳へらるれば、何事も諸君の御熟知のことゝ信じて疑はず。斯くの如く便宜なる世の中なれば、昔時自分等の洋行して歸朝し、歐洲の物語を爲して世人を驚かしたるが如きことなし。今日の世の中には何も驚くべきことなし。眞に皆無と云うて可なり。唯だ事は進歩するに隨て繁密となり、人類社會の事も學科の分るゝが如く日日數端に分れて専門的の攻究を要する次第なる故、經濟を論ずるにも政治を論ずるにも、到底一言にして盡すを得ず。惟ふに是れ諸君御熟知の事にて特に贅言を費すの必要なかるべし。唯だ此行に於て自分の最も感じたるは、奥羽地方の人口の稀少なることにして廣漠たる山野に多く草木の麗はしく繁茂せる有様は、過去三四十年間に東京より西方に向

て往來せる爲め、日本の人口の稠密なるは殆んど支那朝鮮と同一の論にあらずとの感を抱きたる自分をして、一層深く奥羽地方の人口の稀薄なるを感せしめたり。之を以て見れば、奥羽地方の將來に於ける發展の餘地と基礎とは頗る大なるを疑はず。自分は屢々韓國に往來して都鄙の狀況を目撃し、頗る人口の稀薄なるを感ぜり。韓國の面積は八萬二千方哩のものなるが、其人口は未だ正確なる統計を作るの便なきも、警察を以て計上せしめたる結果に徴すれば、先づ一千万足らずのものにて、之を面積に比すれば頗る稀薄なれば、韓國十三道には尙一千五百萬の人口を繁殖せしむるの餘地あり。而して尙地方及北海道の狀況を見るに是又尙は一千万の人口を繁殖せしむるの餘地は充分なるべし。唯だ此繁殖を圖るに如何なる手段方法を必要とするか。此問題は何人と雖も概括して之を論ずること能はざべし。一言にて奥羽と云ふも全部に亘り一律の方法を布くこと能はず。各縣其の事情に應じ最も適切なる計畫を立つるの外なし。但し孰れにしても必要なるは人物なり。然るに幸なる哉當秋田には本日大久保市長の寄贈に係る傳記に依りて其治績の一斑を知るを得たり。佐竹中興の明君元樹公の如き人あり。其人物と云ひ其識見功績と云ひ自分の欽慕に堪へざる所なり。又斯くの如き明君の外に當地は日本有數なる碩學大家の出でたる處にて、佐藤信淵の如き平田篤胤の如き、又輓近に於ては根本翁の如き其名聲の天下に噴々たる人々

少からず。凡そ人間の事業は繼續的のものなる故に、一地方に於て或人物の獎勵したる事績は必ず存して而して後進者之に倣うて更に偉業を爲すものなれば、當縣の如く明君碩學の出でたる地は必ずや後進の士に有爲の人物輩出して地方の發展に助力すること疑を容れず。是れ當縣に取りては實に賀すべきこと、云はざるを得ず。尙又今日歡迎の學生を見るも學校の種類も數多ある様なれば教育の獎勵も必ず充分に行届き居ること、推察せらる。此處に御列席の諸君は孰れも學生に比すれば先輩なれば諸君の誘導に依りて教育は益々其度を高むること、信ず。之を要するに秋田縣の發展は即ち日本帝國の發展に外ならず。日本の國力と云ふも畢竟各地の力を統一したるものなれば諸君の地方に於ける盡力は即ち國家の爲に盡力せらるゝものに外ならず。茲に重ねて諸君が韓太子を迎ふるに斯の如き熱誠なる衷情を以てせられたるを感謝し、特に本官に對して此宴を設けて歡待せられたるに對し自己の感謝を表す。殊に言意を盡さずして甚だ冗長なる言辭を重復せるも、返す返すも諸君の御厚意を謝し秋田縣の將來益々幸福ならむことを希望す。

滿洲開發に就き日露支の利害衝突せず

(明治四十二年十月十九日大連市に於ける内外官民聯合歡迎會に於て)

自分は、從來滿洲を視察せんと欲したるも遂に其の暇を得ず、昨今少閑を得たれば、勅許を得て漫遊の途に上れり。昨日到着したるのみなれば、自分より有益なる談話を爲す能はず。却つて諸君の高説を聽かんと欲す。一言平生の所懐を述べれば、極東の平和は日本にとりて重大なる關係あり。随つて之を維持するに就ては、日本は重大なる責任あり。滿洲在留の日本官憲は常に門戸開放、機會均等の主義に悖らざる施設を爲し、在留日本人は此の主義を尊重し、常に清國人及び露國人と親密の關係を有せざる可からず。清國政府の現に執りつゝある進歩的政策の成功は日本の最も熱心に希望する所にして、日本政府は直接之が援助を爲す能はざれば、間接にても援助すべきものと思ふ。當地方の清國人は日本人と常に親睦して互に其の利益を増進し、文明の恩澤に浴する事を期せざる可からず。自分の所見にては、當地方に於ける露西亞の利益は決して日本の利益と衝突せざるのみならず、各々其利益を増進することに依り當地方の發達を來たし、清國人に物質的文明の恩恵を施すことを得べし。之を要するに支那人、日本人、露國人及び其他此地方に利益を有する諸國民の共力に依り滿洲の平和的發達は期待せらる可きものにて、此平和的發

達は延いて以つて極東全體の平和に貢獻する所少なからざるべし。

右は公の不歸の旅の鹿島立となつた明治四十二年の露國行の途上、十月十九日、大連で、邦人、支那人、朝鮮人及西洋人の催した官民聯合歡迎會の席上で試みた演説で、當時古谷秘書官より漆間日本通信社長に特に電送したものである。政治演説の部最終に編入したものと共に、公の壇上に於ける最後の聲である。

附
録

伊藤公の功績

公爵 山縣有朋

(明治三十五年十月二十日伊藤公還暦に際し、功績を叙述したる五日山縣公自筆の辭)

此が何と昨夜の徳
多りまの也

ホロ、当滄浪園に於て主人の

任辭の還曆の壽筵を園に於て

中村自好十老古の一人として招待

も晴かろけは傍々^家に到り候は
石傳は、御事を奉り候に祝意
を志せり候

相候爵と自居し、若くは社^の儀
下、成長し、知の^の同^の松

下村遊子教々、受け、若者
りか候爵の風、山斬然と
頭角ヲ現はせし年十七八の頃より
或、京橋、或、東都、或、又長
湯、四方、遊歴し、海内の名



士と交りを訂し其の各々の間
に推重せられたるは、自然の
若く記憶する所あり
感々りく尊様の儀儀が

海内、沛騰する、及び、侯爵、
王の、大業、より、王、の、為、に、奉
を、せ、ら、れ、た、る、の、由、付、に、海、内、の
形、勢、を、視、察、す、る、の、必、要、を、感

一 現に此席、所より、所の上

一 新しき、漸然英國、海航

一 早く文明の智識を得る

一 ちり空、衣服の能へり所あり

私より倭國の洋に中、國內の

形勢、急次切迫、赴き且つ麻

兒島の砲撃、續て西國の發

争あり内國の事、未だ空をうら

八
乃に早く外國と交渉を生ずる
事、たゞを以て僅に新に帝國の全
情自ら夢以ち能く満漢の
事、多かりしと云ふ物に、六井上伯

九
新しき、日本と交渉する、高野の長
州藩の物あり、世界の大概を
物、漢一之を、たゞ多謀の程、
を止の、他の、帝國の物あり

地を作るにちかぶ形を其の切續
大ありと云ふ也

治平王政の維新より行われ候
徳より朝延に奉用せられ
多事頻に指辱の地俾歴任

其れ今日に至るに於て其の事
跡に何人か述知せしむる所
て殊に帝國憲法の起原
兼仍改訂の域を及ぶ

七八年仔壽とありて、其、西園

子、對、以、方、切、煎、の、赫、ニ、キ、イ、永、ク

着、身、を、照、く、以、ま、定、り、ま、の、あ、る、

因、り、年、を、後、た、る、ら、う、此、を、其、

若、ニ、自、身、の、最、上、に、後、世、

可、く、し、ら、う、候、爵、の、明、治、十、初、年

以、来、皇、後、を、翼、賛、一、國、統、

統、治、せ、ら、り、と、當、り、上、帝、に、侍、候、

諸先賢の乃よこすて其感情

と其具の衝安を調停し

いと若ぬ一且の創業

諸先賢の遺徳を永遠に

一糸の軌道を成るる國家の

進運を奨励するにその一

行のいは別に於けるの苦心と悉

耐とん空。此書たりと云い

多可ふ以而くは跡常如也

耐く甚心よん候に存口様帝

國の國交々々轉り國運を

高めたる様との元國を治る

成り多かる也此様十年

乃物皇室治國象口所

を勇たれり有る意徳也

及に善方より有る徳と徳也

百の七其精神此精神

江者之存以方得経優行

今日斯の筵を開けり

るに倭將在の其一家の物

とも行、君國の物に

海客の身は、自居物

十年才事ある人、自

喜、堪法り也、而、自居の

最上様せしめられたる御書

此書親の御書に似ては御書

を又くりて書は是也自布ハ

書・護り候御書及其一原

の抄法法書御書人々

書は御書に似て

世書
丁目
御書



昭和三年八月廿七日印刷
昭和三年八月廿七日發行

伊藤公全集第二卷

(非賣品)

編輯者 小松 綠

發行者 永田 成美
株式會社 昭和出版社
代表取締役

印刷者 大橋 光吉
東京市小石川區久堅町百〇八番地
共同印刷株式會社



東京市日本橋區南茅場町四二織田信託ビル内

發行所 株式會社 昭和出版社

電話茅場町(66)一五五〇
振替東京六二六二六

KI40-18







